

ICAO への GANP（世界航空交通計画）施策の進捗報告について

1. アジア・太平洋地域における指標（報告必須項目）

ICAO では、国際的な長期計画「世界航空交通計画」の進捗状況をモニタリングするため、各国・地域に対して、施策の導入状況等について報告を求めている。報告項目は地域によって異なり、我が国は、所属するアジア・太平洋地域において定められた指標に基づき報告を行うこととなる。

以下に、アジア・太平洋地域における指標と我が国の進捗状況について示す。

（優先度が『高』とされている指標）

指標	日本の状況
精密進入、垂直誘導付進入、水平方向のガイダンスを利用した RNAV（広域航法）進入を導入している高密度空港の割合	100%
CDM（協調的意思決定）を活用し、航空交通流管理を行っている空域の割合	100%
高密度空港を有するカテゴリ-S 空域及びカテゴリ-T 空域において、ADS-B（自動位置情報伝送・監視機能）を活用している空域の割合	2022 年頃目途に 80%とする計画
カテゴリ-S 空域において ADS-B、MLAT（マルチラレーション）、レーダーを用いた監視を行っており、監視情報を航空交通管理システムへ統合している ACC の割合 <small>MLAT：航空機のトランスポンダから送信される信号（スキッタ）を3カ所以上の受信局で受信して、受信時刻の差から航空機等の位置を測定する監視システム</small>	100%
カテゴリ-R 空域において PBN（性能準拠航法）に基づく管制間隔をサポートするため、データリンク通信を活用している空域の割合	100%
隣接する ACC（航空路管制機関）とデータ通信による情報交換を行っている割合	80%
航空情報業務 - 航空情報管理に関して、アジア・太平洋地域のロードマップ施策の進捗割合	85%
民軍の協調した空域利用状況の情報共有実施の有無	実施済
民軍の協調した空域調整のための検討会設置の有無	実施済
民軍の協調した空域調整のためのリエゾン配置の有無	実施済

※高密度空港：日本においては羽田空港、成田空港の2つ

※カテゴリ-R 空域：日本においては洋上空域（原文：remote en-route airspace within Air Traffic Services (ATS) communications and surveillance coverage dependent on a third-party Communication Service Provider）

※カテゴリ-S 空域：日本の場合は陸域（原文：serviced (or potentially serviced) en-route airspace - by direct

(not dependent on a GSP) ATS communications and surveillance)

※カテゴリ-T 空域：日本の場合はターミナル空域（原文：terminal operations serviced by direct ATS communications and surveillance)

（優先度が『高』以外の指標）

指標	日本の状況
PBN を実施する能力を有する管制機関の割合	100%
AMAN（到着管理）、DMAN（出発管理）を実施している高密度空港の割合	50%
地上走行誘導管制システムを実施している高密度空港の割合	50%
空港 CDM を実施している高密度空港の割合	50%
空港の気象について、予報、警報、情報提供を実施している高密度空港の割合	100%
UPR（利用者設定経路）、DARP（動的飛行経路変更方式）を実施している ACC の割合	100%
カテゴリ-R 空域で RNP2, 4, 10, RNAV10 を設定している航空路の割合、またはカテゴリ-S 空域で RNP2, RNAV2 を設定している航空路の割合 <small>RNP2, 4, 10, RNAV10 : PBN の種類の一つ</small>	100%
ACAS（空中衝突防止装置）、TAWS（対地接近警報装置）について、航空機装備要件の有無	実施済
CDO（継続降下運航）を実施している高密度空港の割合	0%
CGO（継続上昇運航）を実施している高密度空港の割合	0%
SID（標準計器出発方式）/STAR（標準到着経路）を実施している高密度空港を有する空域の割合	100%

2. ICAO 本部等により提案されたその他の指標

以下の指標は、ICAO 本部等で提案された指標であるが、報告対象となっていないものである。施策の進展等に伴い、将来追加されていく可能性もあることから、参考までに主要な指標を列記する。

- ・垂直方向ガイダンスを用いた非精密進入方式を導入している国際空港の割合
- ・SBAS・GBAS（衛星・地上施設による位置補正）を用いた垂直誘導付進入を導入している国際空港の割合
- ・後方乱気流対策として、カテゴリ-化された間隔制御を導入している国際空港の割合
- ・監視、警報システムを導入している国際空港の割合
- ・航空情報の標準化の実施の有無
- ・世界空域予報システムを活用している気象監視局の割合

- ・ 航空路火山灰情報センターを活用している気象監視局の割合
- ・ ウインドシアア警報を有している国際空港の割合
- ・ 悪天情報を活用している気象監視局の割合
- ・ 定時航空実況、指定特別航空実況、飛行場予報を実施している国際空港の割合
- ・ 制限空域の内、民間航空のために利用できる空域の割合
- ・ PBN 運航が可能な空域の割合
- ・ ADS-B OUT（発信のみ）を装備している航空機の割合
- ・ ADS-B IN（発信及び受信）を装備している航空機の割合
- ・ 空対空監視を活用した高度変更を可能とする航空機の割合
- ・ 管制官に対する航空機衝突警報を実施している管制機関の割合
- ・ 管制官に対する空域接近警報を実施している管制機関の割合
- ・ 管制官に対する最小安全高度警報を実施している管制機関の割合
- ・ 管制官に対する衝突予測及び回避サポートを実施している管制機関の割合
- ・ ADS-C（契約型自動従属監視）を活用した管制を実施している空域の割合
- ・ 陸域において管制官－パイロット間の空地データリンク通信を実施している空域の割合